

タウンニュース

川崎市宮前区版 2019年2月15日掲載

市政報告

「新田園都市」の環境デザインができる

「鷺沼駅周辺再整備を「官」と「民」の連携で」
みらい川崎市議会議員団 おだかつひさ



おだかつひさ

1961年幸区生まれ。駒場東邦高校、中央大学 法学部卒業(地方自治、都市政策専攻)国会議員秘書を経て、2003年市議会初当選、現在4期目。まちづくり委員会委員、原水爆禁止川崎市連絡会議事務局長。好きな言葉「知行合一」、有馬在住

f t おだかつひさ 検索

このままでは「家から出ない」「買い物に出られない」「生活になってしまわない」生活になってしまわない。1キロメートルを歩く圏内で、バスや電車などの公共交通での移動を加え、なんとか生活をつくっていかなくてはなら

ない……。宮前区にお住まいの高齢者からは切実な危機感が寄せられています。私たちの未来を決める分岐点です。

◎多世代をバックアップ

鷺沼駅周辺を宮前区全

体の活性化を促す「核」とし、地域生活拠点の形成を図る——との方針が

2月4日、川崎市から示

されました。区役所・市民館・図書館を移転・整備する計画です。

今回の再開発事業は、東急電鉄など民間事業者

主体の事業に、市と市民の意向をできる限り踏まえ、市民生活の利便性の

向上が最大のコンセプト。鷺沼駅は、宮前区全体から路線バスなどでのアクセス環境を整う「交通結節駅」となり、宮前区民の生活を支える公共機能の再編成を含め、街を支えていくさまざまな機能が整備されます。

◎誰もが「住み続けたい」まちに

「人は、家に住むが、街にも住む」。これからは街に多様な「居場所」と「仕掛け」の整備が必要です。

宮前区を誰もが「引越して来たい」「住み続けたい」と感じる「持続可能な」まちに創り変える。

この絶好のチャンスに、市民の皆さんのパワーと声を結果させていきます。